

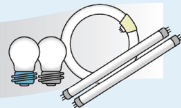
平成30年度 優良廃棄物管理建築物一覧

建築物名称	所在地	建物概要 (床面積)	主な優良取組内容
ミズノ株式会社 東京本社	神田小川町3-22	自社ビル 6,645㎡	・関連部門の責任者による委員会を定期的に開催し、積極的に社内の意思統一を図り、環境保全活動を推進 ・微生物の力で生分解処理する生ごみ処理機により、生ごみの排出自体を抑制
三井住友銀行東館	丸の内1-3-2	自社ビル 88,549㎡	・自販機及びシュレッダーコーナーの分別容器を工夫し、簡易会議が可能なスペースのテーブル代わりとして利用 ・食堂から排出される厨芥の食品リサイクルの実施(飼料化)
第7東ビル	神田佐久間町1-9	テナントビル 6,634㎡	・テナント向けにごみ全体の分別表と写真入りの可燃・不燃ごみの注意書きを各階の排出場所に掲示して分別を徹底
三井住友銀行本店ビルディング	丸の内1-1-2	テナントビル 80,047㎡	・イラスト入りの17種類からなる分別表や事例を元に分別の徹底を促す注意書きを掲示 ・食堂から排出される厨芥の食品リサイクルの実施(飼料化)
三菱UFJ信託銀行本店ビル	丸の内1-4-5	テナントビル 109,916㎡	・廃棄物分別ルール(ごみ全体の分別表)を各階の排出場所に掲示して分別を徹底 ・飲食店から排出される厨芥の食品リサイクルの実施(飼料化)

上記の建築物は、平成29年4月から平成30年3月の間に、千代田清掃事務所が立入調査を実施した203件の事業用大規模建築物の中で、事業系廃棄物の減量・リサイクル促進に積極的に取り組み、区の目指す「資源循環型都市千代田」に大きく貢献している建築物です。

平成30年度「事業用大規模建築物における優良廃棄物管理者表彰」は、優良取組建築物の中から、他の建築物の模範となる取組内容を、区長表彰として広くお知らせさせていただくものです。

水銀使用製品の排出に注意！



平成25年10月、水銀による汚染防止を目指した「水銀に関する水俣条約」が採択されています。それを受け国内では平成29年10月に、「水銀汚染防止法」が施行されています。

また、水銀使用製品の廃棄に関し、『廃棄物の処理及び清掃に関する法律』が併せて改正されています。委託業者を選ぶ際はご注意ください。

- ① 一部のボタン電池(品番が「NR」「MR」で始まるもの)
- ② 蛍光灯・HIDランプ
- ③ その他水銀を使用している製品
 - マニフェストの交付の際は各品目の限定条件に記載(廃水銀等)が必要です。

★ 詳しくは、千代田清掃事務所までお問い合わせください。

千代田区環境まちづくり部 千代田清掃事務所

〒101-0021 千代田区外神田 1-1-6
電話 (3251) 0566

平成30年度

事業用大規模建築物における
優良廃棄物管理者表彰

● 優秀賞 ミズノ株式会社 東京本社ビル



千代田区

【優秀賞】

ミズノ株式会社

東京本社

所在地：千代田区神田小川町3-22

所有者：ミズノ株式会社

建物概要：地上8階 地下1階建

主たる用途：事務所

延床面積：6,645㎡

従業員数：570人

廃棄物発生量	再利用量	再利用率	
		廃棄物全体	一般廃棄物
43.8 トン	38.6 トン	88%	87%

(平成29年度実績)

優良な取り組み事例

1 環境保全活動の推進

環境管理責任者を中心に関連部門の責任者から構成される委員会を定期的に開催し、環境方針の策定・改訂、短期・中期・長期環境目標の設定や目標達成のための具体的施策などを討議し、積極的に社内の意思統一を図っています。

また、廃棄物の削減を重要課題の1つとして掲げ、持続可能な社会を実現するために、環境負荷低減に向けた取り組みを全社的に進めています。

2 ごみの分別と削減

社員自らが古紙類の分別を徹底し、計量器によりごみ量を把握することで、可燃ゴミの削減、資源の有効活用を推進しています。

また、社員食堂から排出される調理くずや残飯は、微生物の入った生ごみ処理機に投入することで水とCO₂に生分解処理されるため残渣がほとんど無く、排出自体を抑制しています。



3 事務用品のリユース

バインダーやボールペンなど余剰になった事務用品を品目別に1箇所にとりまとめ、社員が自由に再使用できるようにし、経費削減及び廃棄物の発生抑制に努めています。



受賞者の声

ミズノは、持続可能な社会を実現するために、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであると認識し、25年以上にわたり資源の有効活用、CO₂排出量や環境汚染物質など環境負荷低減に向けた取り組みを進めてきました。

1997年に国内の主力工場であるミズノ養老工場(現ミズノテクニクス㈱)がスポーツ業界として初めてISO14001の審査登録をし、その後国内の事業所へ展開しました。

ミズノグループでは、従業員一人ひとりの環境意識の向上のため、全社員に向けての環境教育を実施しています。部門ごとに実施している各部教育ではミズノの環境保全活動に対する考え方や目標を周知するとともに、毎年のトピックスについて、幅広く学びます。

具体的な廃棄物減量対策については、廃棄物管理責任者 e ラーニング講習(千代田清掃事務所)のテキストにも掲げられている、ごみを減らすためのキーワード「3R:スリーアール」を実践しています。

① Reduce(リデュース):発生抑制 ―ごみになるものを減らす―

- 資料の電子化や電子メールによるペーパーレス化、両面コピーによるコピー用紙の削減
- 社員食堂に「生ゴミ処理機」(微生物の力で生分解処理、残存物の取り出し不要)の導入(1日約30kg排出されていた厨芥ごみをほぼゼロに抑え、月間で約600kg、年間で7200kg以上の厨芥ごみを削減)

② Reuse(リユース):再使用 ―捨てずにまた使う―

- 使用済み封筒、社内で不要になったバインダーやボールペン、オフィス什器の再使用

③ Recycle(リサイクル):資源化再生利用 ―もう一度資源として生かす―

- 紙の種類ごとに分別回収を徹底し資源物回収業者に引き渡す

また、各フロアで出された廃棄物を計量器により測定・把握し、通常よりも極端に増えたフロアについては担当者に報告・分析し、対策をとるようにしています。

上記のような対策を行い、当事業所における廃棄物の削減、再利用率の維持向上に努めています。

当社の廃棄物に関する取組が評価され、「優秀賞」として表彰して頂くことは大変光栄であり、関係者の皆様には感謝を申し上げます。今回の受賞を励みとして今後共、継続して廃棄物のリサイクル等に取り組み、排出量の削減及びリサイクル率の向上を目指してまいります。